果　　樹

【りんご】（普通樹）

令和６年産「ふじ」の健全花芽率は、管内の平均（３市町４ほ場）で60%を超え、花芽は確保されています。しかし、園地によっては葉芽の割合が高い状況も見受けられたことから、着果過多となった園地や着果管理の遅れた園地などでは花芽の状況をよく確認してからせん定を行いましょう。また、次年度に向け、充実した花芽となるようにせん定作業で日当たりの改善や、弱い枝を切り上げるなどの対応を行いましょう。

１　「園地の空間確保と整枝」

整枝・剪定作業に入る前に、園内が混んでいないか確認し、間伐や縮伐が必要かを検討します。特に、植えられた若木が素直に伸びることができるように、十分な空間を確保しましょう。

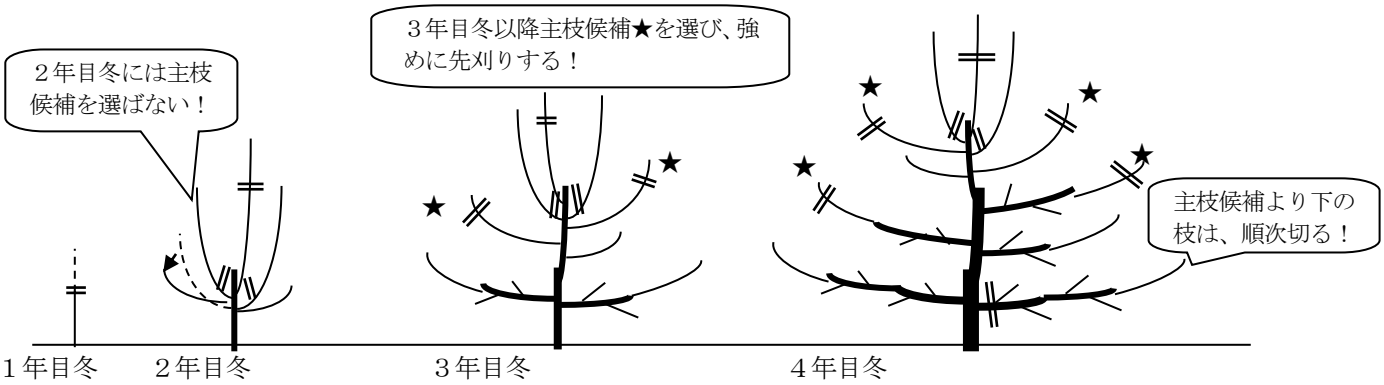
また、整枝（誘引、支柱立て等）により、主枝や亜主枝などの骨格枝をしっかりつくることや、特に若木や樹勢が強い樹で樹を落ち着かせることも重要です。

２　「普通樹若木の仕立て方ポイント（「ふじ」主体）」

５～６年生までは、主枝候補枝８本を決め、うち有力候補４本をつくる時代です。

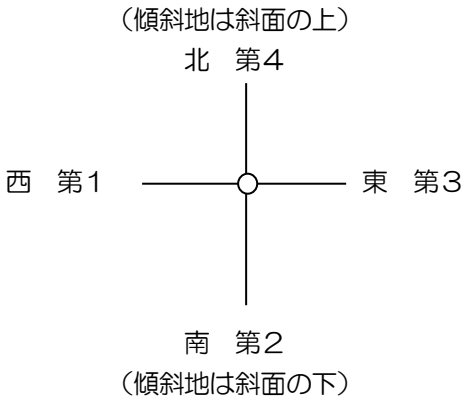
①定植後３年目以降から主枝候補枝を１年に２本程度ずつ決め、５～６年目に候補を８本程度に決めます。８本のうち４本を有力候補とします（低い位置の枝は作業性等から主枝には不向きです）。

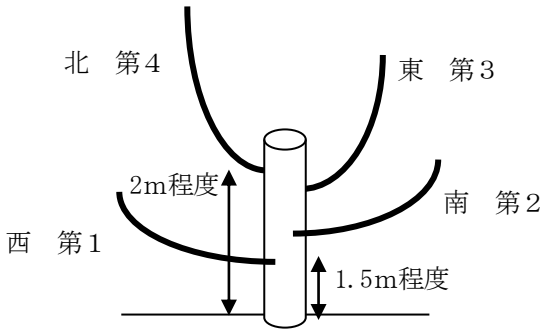
※現地の失敗例は、２～３年目に主枝４本を決め、車枝になっているものがあります。



②有力候補４本は骨格をしっかりつくるため、先端の先刈りは強めに行います。
それ以外の候補４本は、結実も考慮しやや弱めに先刈りをします。

③４本主枝を当面目指します。できれば**北を一番高い第4主枝にし、対角の南を低い位置にしましょう**。
ただし、傾斜地は、斜面の上側に一番高い第４主枝を選びます。
４年目位までは、主幹部の欲しい位置・方角に主枝候補枝（発生角度が広く充実した枝）を出させるように切るのも１方法です。４本主枝の有力候補４本の配置例を次に示します。





南～西の受光体制が良い配置例

＊腐らん病は、１～２月よりも３月以降に剪定を実施した方が、発生は少ない傾向があります。

【ぶどう】

本年は、新梢管理が不十分で枝が混んでいる場所を中心に登熟の悪い枝が見られます。登熟が悪い枝の多くは枯れてしまい、寒い冬をうまく超えることができません。必ず、各園地、各樹の枯れ込み状況を確認してください。枯れ込みが多い時は、間伐や縮伐をすると棚面が埋まらず、芽数が足りず、結果的に強剪定となる事があるので注意しましょう。

「長梢剪定は、まず間伐・縮伐と枝移動から」

ぶどうの剪定は、間伐･縮伐と枝移動から始まります。これがうまくいけば、作業の７割が成功です。
次の手順で実施していってください。

①まず、良くない樹を間伐する

切るべき樹・・・着色が良くない
樹勢が弱く収量があがらない
幹に障害を受け、将来が不安（クラウンゴール、クビアカスカシバ等）

②残った樹で、間伐が必要かどうか観察する

ア　樹冠がまだ拡大していく樹の場合（おおむね１５年生まで）

・隣接樹と枝が交差していないか？
→　間伐は早め早めに実施する。
主枝が余裕を持って伸びるような充分なスペースを間伐によって確保する。

・間伐する樹はどれか？
→　毎年優良な果実ができる樹を決め、他を切る決断をくだす。
あれもこれも残したい・・はよくない。（浮気はしない）

・間伐であいたスペースに持っていきたい枝の状態は？
→　間伐する前に必ず、枯れ込み・クラウンゴール・虫害等の状況を確認する。
切ってしまった枝はくっつかない！

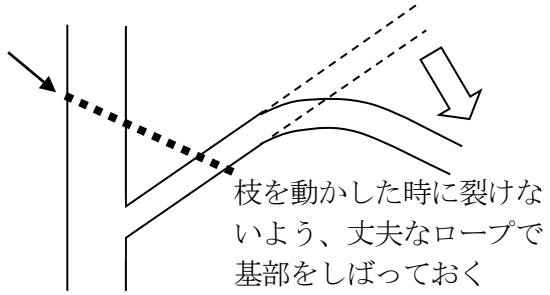
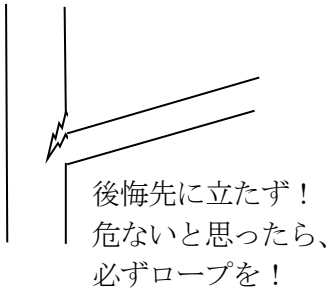
イ　樹冠拡大しない樹の場合（おおむね１５年生以上）

・原則として間伐はしない。むしろ、近くに植えた若木がじゃまな場合がある。
→　将来的に、若木を残すか、成木を残すかを決める。

③間伐の実施

枝片づけしやすいよう、数ヶ所に枝をまとめながら実施する。

④間伐後に枝を動かす（整枝）

ア　本格的な整枝はせん定後に行うが、おおまかに主枝等の方向を決めて動かす。
→　できれば数人で行いたい。りんごの支柱などを活用しながら行うと効率的。
→　今まで枝ふりをしたことのない樹で大幅な枝ふりを行うと樹が弱ることもある。

イ　枝が裂ける事故が発生しやすいので注意！
→　大枝を動かす前に、棚にからみついた巻きづるを、全て切っておく。
特に徒長的に伸びた枝は、途中で切り戻しても良い。
太い枝の分岐部分は、ロープなどでしばり、裂けないようにしておく。